

## 豊明希望チャペル礼拝

2022/5/8

ヨハネの福音書 10 : 22~30

「あなたは、すべてにまさって大切」

今日は、まず、この聖句を読みます。

「10:29 わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。」

これは、新改訳 2017 年版の訳ですが、この前の訳(第 3 版)は、こうなっていました。

「10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」

決定的に違うのはここです。

「わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切」  
(2017)

「わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大」(Ⅲ版)

2017 は、神がキリストにゆだねられた人々、すなわちクリスチャンは、イエス様にとって、すべてにまさって大切な存在だと言っているのです。

しかし、前の聖書では、偉大なのは、神であって、素晴らしいクリスチャンを私(イエス様)に与えてくださった神こそ偉大だと言っている点です。

元を正せば、昔の口語訳の聖書は、2017 のようになっていました。(10:29 「わたしの父がわたしに下されたものは、すべてにまさるものである。そしてだれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない。」)

どちらにしても、神は素晴らしいという事を結局は言っていますが、2017 は、ほんと、いい訳ですね(ギリシャ語にあたってみました。どちらが正解であるのか、私には判断しかねるのですが・・・「大切」が、神にも人にもどちらにもかかっているように見える・・・)。

イエス様が、私たちクリスチャンを指して、私たちクリスチャンは、神がイエス様に与えてくださったもので、クリスチャンを(私を)、イエス様が、「(あなたは：クリスチャンは)すべてにまさって大切です」と言っていて下さるのですから。

週報に、今週の聖句にあげておきましたので、どうぞ確認して下さい。

さて、22 節から見ていきましょう。

まず、この話しが話されたのは、宮きよめの祭の時期であったとあります。

「10:22 そのころ、エルサレムで宮きよめの祭りがあった。時は冬であった。  
10:23 イエスは宮の中で、ソロモンの回廊を歩いておられた。10:24 ユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。あなたがキリストなら、はっきりと言ってください。」」

前回までのところを思い起こしましょう。

よき羊飼いの話から始まって、私(イエス様)こそ、羊のために命を捨て、それを得させることの出来る、すなわち、キリストが私たちの罪を贖うために十字架で、死なれ、そして、私たちを神の子とし、永遠の命を与えるために、復活された、わたしたちの、まことの羊飼いでであると、言われました。その結果、イエス様に殺意をもった人もいれば、そうかもしれない、受け入れたいと思った人たちもいて、分裂したと「10:19 これらのことばのために、ユダヤ人たちの間に再び分裂が生じた。」とありました。ですから、24 節の言い方は、その流れで言えば、次第にイエス様の言葉に心を動かされて、明確に、そうだと言ってくれれば従うという人もいたということのようです。しかし、一方で、この、はっきりとそう言ってくれというのは、心動かされた人々の要求であると同時に、イエス様に従いたくない、むしろ殺してしまいたいと思っていた人たちと、奇しくも一致しました。彼らは、イエス様が私は神だと言う事によって、神を冒とくした罪で、殺す口実が出来るということだったからです。

ですから、イエス様のお答えは、その両者に対する答えとなりました。

すなわち、イエス様が神であって救い主である事、この真理を、争い、政争の道具にするのではなくて、賛成する人にとっても、受け入れられないと思っている人にとっても、誰か他人や、あるいは一般的な問題ではなく、あなたの、あなたの人生の、貴方の決断の問題として、あるいは、個人的な決断と救いとして、どうか受け入れて欲しいという思いがあったのです。

そして、イエス様を受け入れようとしている人たちにとっても、イエス様に対する認識で、大変な誤解をしていたと考えられるのです。イエス様を政治的な改革者のようなイメージで、この 19 節の「キリスト」=メシヤ=救い主を、ローマからの解放者、政治的な改革者として期待していたと言うことです。

少し、当時の状況についてお話しします。

まず、22 節にある「宮きよめ」の祭ですが、聖書を良く読んでいる人でも、そんな祭があったのか?と思う方もいると思いますが、イエス様の時代の前の数百年の間に広まった新しい祭でありました。

イエス様の時代からさかのぼること、200 年数十年前、アレキサンダー大王(マケドニア)が、ギリシャが世界を席卷し、イスラエルの北のシリアをアレキサンダー大王の息子が治めていたとき、シリアがイスラエルを襲い、ついにエルサレムをとってしまったのです(シリアは、1 万人のユダヤ人を捕虜として連れて行き、エルサレム神殿を、ギリシャの神をまつる神殿に変えてしまった・・・)。その時代に、イスラエルに、「マカベア」という人があらわれて、異邦人シリアの人々を宮から追い出し、イスラエルに勝利をもたらしたのです。それを記念する祭りでありました。彼らは、キリストに、そういうマカベアのような人の再来として期待していたのです。

ちなみに、バッハと同時代の音楽家でヘンデルという人がいます。ヘンデルの曲で、「ユダス・マカベウス」という曲があって、私もヘンデルが好きですが、その中で、「たああん、たああんと、たああんと、たたたたたんたんたん・・・」

という（皆さん聞いた事ありますね？）、スポーツ競技の表彰式で使われる曲（旧讃美歌（130）よろこべや、たたえよや・・・）は、実は、あれ、そのマカベアを称える曲なのです。

すなわち、24 節の「もしあなたがキリストなら」その言葉の意味は、あの、マカベアのように、あなたは、この時代、ローマから解放してくれる、来るべきマカベア、というか、メシアなのか、そういう意味でのキリストなのかとそう、問うたという事であります。

さて、イエス様は、どうお応えになったかです。今一度、後半を読みましょう。

「10:25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話したのに、あなたがたは信じません。わたしが父の名によって行いうわがが、わたしについて証しているのに、10:26 あなたがたは信じません。あなたがたがわたしの羊の群れに属していないからです。10:27 わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。10:29 わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。10:30 わたしと父とは一つです。」

27 節までは、前回の続きで、羊の群にあなたは属していないのではないかと、自分の胸に手を当てて、考えなさいということです。反対する人にも、賛成する人にも両方に、言っておられることです。私の羊なら、羊飼いを理解しているはずだと言っておられます。偽物の羊飼いではもちろんなく、また、イスラエルに政治的解放をもたれらす程度の羊飼いでない、彼がいなかったら、エサにもありつけないし、水にもありつけないし、狼や危険からも守られない、そういう、私たちの命がかかっている、命をあずけるべきお方だと理解しているはずだと言われるのです。

すなわち、10:28「永遠のいのちを与え・・・」誰もこれを奪うことの出来ない程確実に与える事が出来る方だということです。そして、これが、マカベアと私の違いだと言ったのです。

どんな、素晴らしい解放者であっても、まことの命まで与える事は出来ません。いや、一時、例えば敵から、その命を守っても、その人は必ず死ぬのです。しかし、私、すなわち、イエス・キリストは、永遠の命を与える。と。

その命について、バークレーという説教者は、このように整理しました。

- 1, その命は、神の命であって、もはや、私達の今の命とはまったく質的に違う天国の命であること。
- 2, その命は、永遠に続く長さを持つ、永遠の命であること。
- 3, その命は、一度手にすると、けっして失うことのない、安全な命であること。

そして、最初に読んだこの言葉です。「10:29 わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去る

ことはできません。」

私は、私を信じ、その命を私に託す人々を、とても大切だと思っている。私は私を信じる人を、決して捨てない。必ず、永遠の命に導く。なぜなら、彼らは、私にとっても、神にとっても、大切な人たちだからだと言うのです。

なんか、ほんと、こういうところは、2017 訳いいですね。

そして、彼らが、この永遠の命を手にとると、もう死なないというのです。

「父の御手から奪い去る」とはそういう意味です。また、死んでも、天国の神の御手の中に、天国に行くという意味です。そういう再生の魂をキリストは、あなたに与えると言っていると言うことです。

是非、聞いて頂きたい、あるエピソードがあります。ムーディーという説教者についての話しです。

このムーディーが説教した後、ある男が彼に質問したのです。私がクリスチャンで、永遠の命をもっているとうちやたら知ることが出来るのでしょうか。ムーディーは聖書を開いて、Iヨハネ5:11~12を示しました。「5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」(二版 p431 三版 p471)

ムーディーは、それで、こう言いました。あなたは、信じますか？

「はい、信じます。」「では、貴方はクリスチャンですか？」

彼は、また答えました。「ええ、時々。でも時々は違います。」

ムーディーは、彼の目をしっかりと見て、言いました。「友よ。どうして貴方は疑うのですか？」彼は言いました。彼は、何かに気づいたようでした。先生、あなたの言うことがわかったように思います。私は、私の救いを疑っていたとき・・・神を疑い、神の言葉を疑っていたのですね。これからは、けっして、二度と、キリストが私に与えて下さった、あなたの救い、これは、「私の救い」ではなくて、貴方の救い、キリストが与えて下さった救いなのですね、それを疑わないようにしたいと思います。

今日、私たちは、キリストが、私たちのことを大切だと言っておられると学びました。また、神が、私たちが大切だから、キリストにゆだねられたと教えられました。

クリスチャンが洗礼を受けて後、人からも、また自分自身でも、「あなたはそれでもクリスチャンか、そんなに罪深くて」と、言うかも知れません。しかし、間違っってはならないのです。神もキリストも、あなたを選ばれたのです。そしてあなたを大切だと思っておられるのです。私たちは自問自答するとき、「はい、それでもクリスチャンです。わたしはキリストのものとされたキリストの羊です。」そう答えなければならないのです。

「だれも父のみ手から、それ(新しいわたしの命)を奪い取ることはできない。(口語訳)キリストと、父である神が、信じる者には与えて下さる、大切なあな

たに、私に与えて下さる、この幸いを噛みしめ、感謝と賛美に歩む、この週でありたいと願います。